青かし

烏山北小学校の教育目標
◎すすんで学びよく考える子ども
○豊かな心をもち仲良く助け合う子ども
○すすんで健康な体をつくる子ども
重点目標　みとめあい　まなびあい　そだてあい

＜目指す児童像＞「かしこい子」「らしさを大事にする子」「きりつ正しい子」「たくましい子」

令和８年５月29日（金）
創立７４周年　Ｎｏ．３

烏山学舎　世田谷区立烏山北小学校　校長　河野　芳浩
〒157-0061 世田谷区北烏山6-3-1 TEL3300-5764 FAX3300-5785
学校HP　http://school.setagaya.ed.jp/kata/

せたがや　さとやま　からすやま♪

校長 河野 芳浩

校長室の大きなテーブルに用務主事さんがアジサイを飾ってくれました。しばらく足を運ばないうちに校舎北側のアジサイが早くも咲き始めていることを知りました。北小の木々や草花が、季節がまた一つ移り変わったことを教えてくれています。豊かで手入れのよく行き届いた校内の緑には、都会の中のちょっとした里山を感じます。（西側の植え込みには大きなトトロもいます。大人にも見えるので、ぜひ見つけてください。）

解剖学者であり、豊かな自然や昆虫を愛する養老孟司さんは、日本の「里山」の大切さを語るなかで、よく「手入れ」という言葉を使われます。そしてこのことは、自然だけでなく「子育て」にもまったく同じことが言えると様々な著書で述べられています。養老さんの言う「手入れ」の本質に触れながら、私たちが日々向き合う子育てについて、ともに考えてみたいと思います。

原生林（ジャングル）は、人間の手を一切拒み、自然のルールだけで生い茂る場所です。一方で「里山」は、人が適度に木を伐り、草を刈り、落ち葉を拾うことで維持される自然と人間が共生する豊かな空間です。養老さんは、この里山を美しく豊かな場所に保つ行為こそが「手入れ」だと言います。

「手入れ」とは、人間の思い通りに自然をコントロール（支配）することではありません。「相手の出方を見ながら、少しだけ手を加える。あとは相手（自然）の力に任せる」これが、養老さんの言う「手入れ」の本質です。

雨が降る日もあれば、日照りが続く日もある。そんな自然の営みをじっと観察し、敬意を払いながら「今は少し草を刈っておこう」「ここはそっとしておこう」と、絶妙な塩梅で関わり続けること。それが里山を輝かせるのです。

私たちはつい、子育てを「思い通りの形に育てること」と捉えてしまいがちです。しかし、子どもは親の所有物でも、自由に形を変えられる粘土でもありません。子どもは、子ども自身が自ら育とうとする強い生命力を持った「自然そのもの」なのです。だからこそ、子育てに必要なのはコントロールよりも、例えていうならば里山と同じ「手入れ」なのだと考えます。

では、「手入れ」としての子どもへの関わりとは、何なのでしょうか。

「じっくりと観察する」→（今日の子どもの表情、言葉、心の天気に耳を傾ける）

「環境を整える」→（のびのびと育つための安心できる居場所をつくる）

「過剰に手出しをしない」→（子ども自身の育つ力を信じて、あえて見守る）

子どもというかけがえのない自然に対して私たちができるのは、じっと寄り添い、必要なときにだけ、多すぎず少なすぎずそっと手を差し伸べること。それ以外の時間は、子どもが持つ無限の可能性と生命力を信じて、ただ愛おしみ、待つことしかできません。

日々の子育ての中では、思い通りにいかないことや焦りを感じる瞬間がたくさんあると思います。まるで予測のつかないお天気のように、子どもたちの心も日々揺れ動いています。しかし、それこそが生命の豊かさそのものです。野の花は輝き、空の鳥は自由に飛び回ります。自然は恵みにあふれています。完璧を目指す必要はありません。大切なのは、今日もお子さんの姿をよく見て、その存在を丸ごと愛おしむこと。「手入れ」という優しくあたたかなまなざしを持って、焦らず、比べず、お子さん自身が持つ「育つ力」を、ともに慈しみながら育んでまいりましょう。

小さな成長のサインを見逃さず、このかけがえのない季節を一緒に歩んでいけたら幸いです。今月も「みとめあい　まなびあい　そだてあい」の教育活動に取り組み、子どもたちの歩みを支えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

６月うまれのおともだちへ

おたんじょうびおめでとうございます。けんこうがまもられてよろこびにみちた、にこにこえがおのたのしいまいにちが、すごせますように♪